

# 平成24年度マダイ幼魚資源調査結果

福岡県水産海洋技術センター 研究部

## 調査の概要

### 【調査日】

平成24年7月9日(月)・・・糸島海域

平成24年7月11日(水)・・・宗像海域・福岡粕屋海域

### 【調査船および調査点数】

宗像海域・・・・・・・・・・蛭子丸(鐘崎漁協所属)6点

福岡・粕屋地区海域・・・・千代丸(新宮支所所属)8点

第三藤丸(新宮支所所属)8点

糸島海域・・・・・・・・・・松若丸(船越支所所属)6点

若廣丸(船越支所所属)6点

### 【調査内容】

一艘ごち網(目合い20節)で1回の操業で採取されるマダイ(ジャミ)、キス等について、分布状況および体長測定を実施しました。

### 【調査結果】

#### 1. ジャミの分布

表1 各海域のジャミ入網数

海域名	平均入網数	最大入網数	最小入網数	前年比	平年比
宗像海域	393尾	1037尾	4尾	1491%	131%
福岡粕屋海域	651尾	1026尾	17尾	190%	183%
糸島海域	149尾	264尾	0尾	105%	70%
筑前海平均	428尾	1037尾	0尾	208%	146%

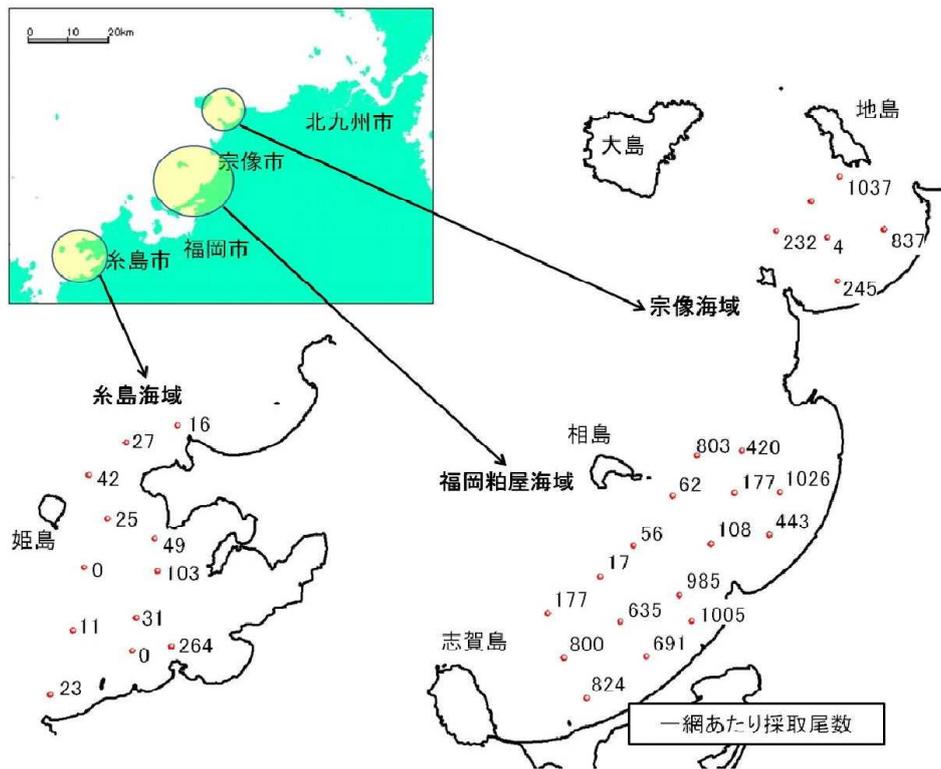


図1 平成24年度ジャミ調査結果

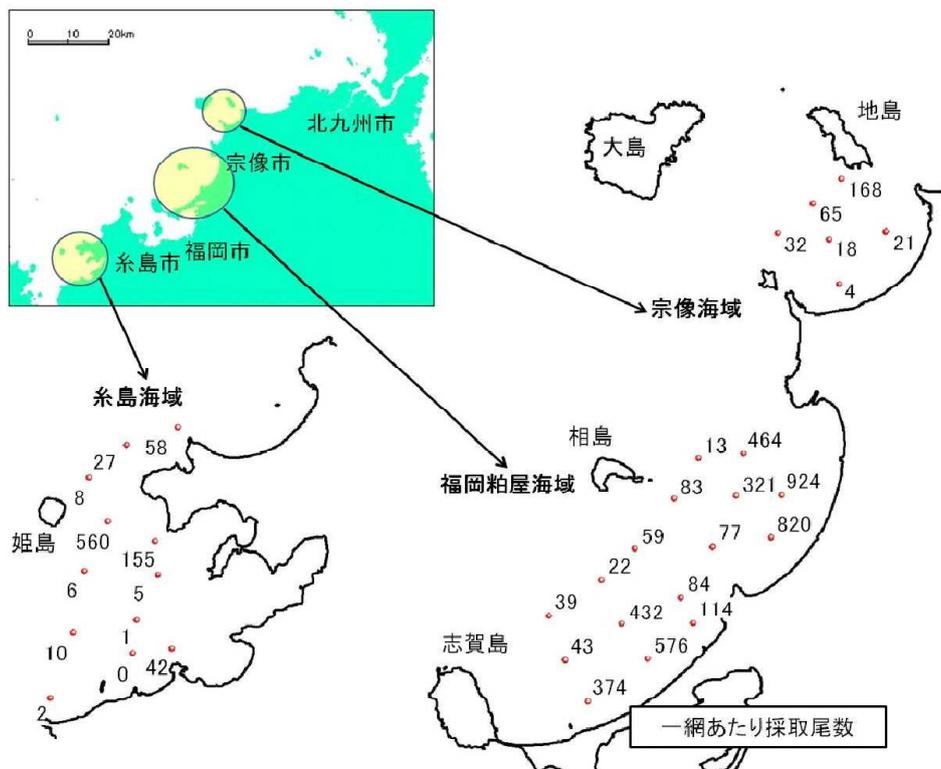


図2 昨年度のジャミ調査結果

海域別にみますと、福岡粕屋海域、次いで宗像海域で多く、糸島海域ではやや少ない傾向がありました。ただし、糸島海域でも昨年並みには獲れています。また今年のジャミは例年より小型であり、調査に用いた20節の網からでも逃げるジャミが多数認められています。そのため実際にはもう少し多く生息すると見られ、今年は全体的にジャミの発生量は多いと思われます

## 2. 入網数の年変動

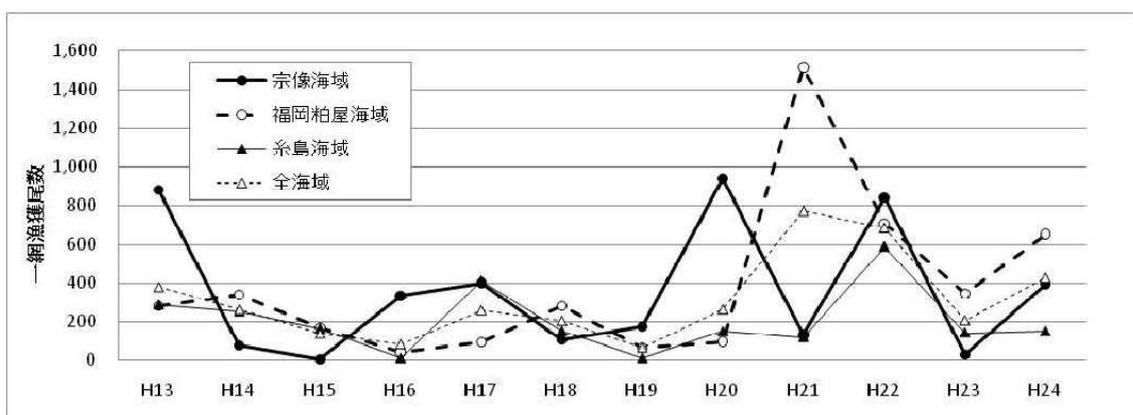


図3 近年の入網数の推移

23年度はいずれの海域でもジャミの入網数が前年を下回っていましたが、24年度は糸島海域では横ばい、宗像、福岡粕屋海域は大きく前年を上回りました。

## 3. 体長

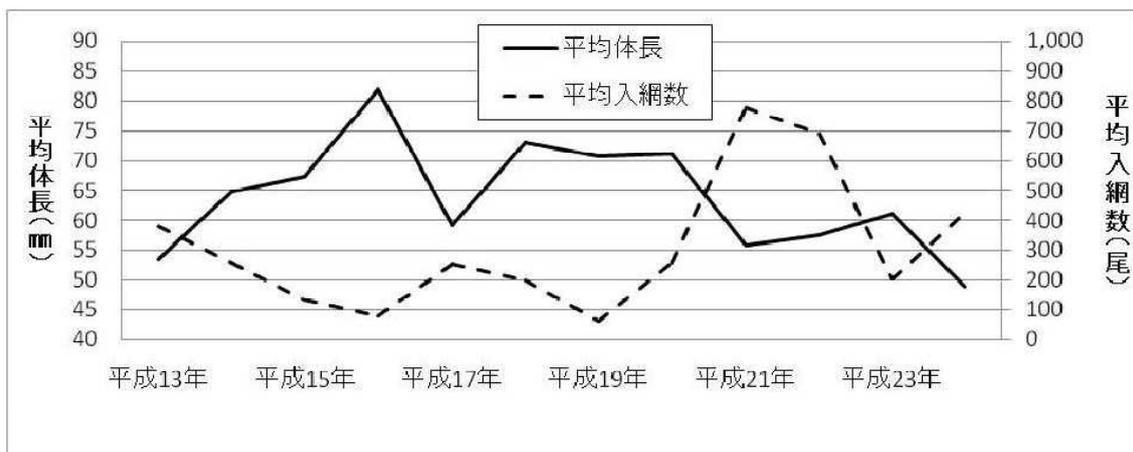


図4 近年の平均体長と平均入網数の推移

平成24年のジャミの平均体長は49mmとなり、初めて50mmを下回りました。また調査に用いた20節の網から逃げるジャミも多数確認されていますので、実際の平均体長はもっと小さいと考えられます。

また、平均体長と平均入網数の間には負の相関が認められ、数がたくさん獲れる年は体長が小さくなる傾向があるようです。

#### 4. 今後の見通し

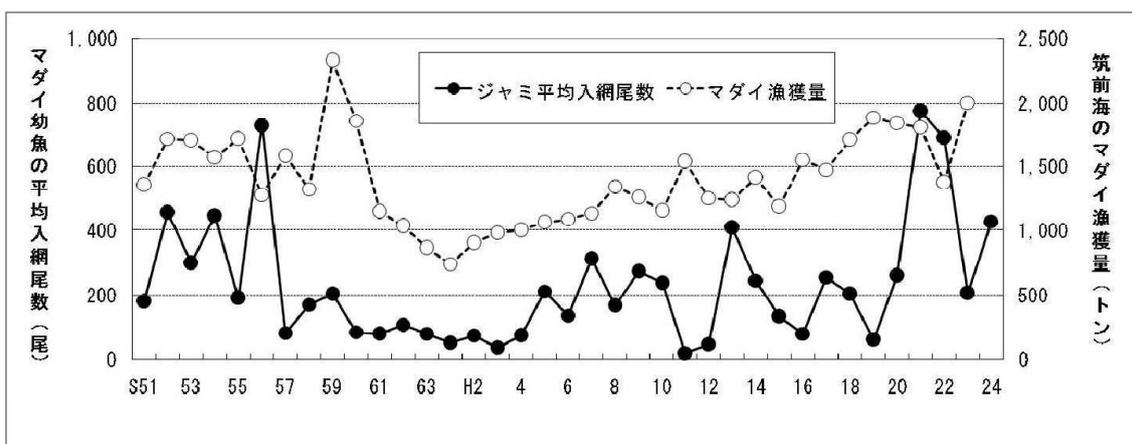


図5 ジャミの数とマダイ漁獲量の推移

最後に、ジャミ調査の結果とマダイ漁獲量の関係について説明します。

ジャミはおよそ2年ないし、3年後には漁獲対象となります。そのため、ジャミが多く獲れた年の2～3年後にはマダイの漁獲量が多くなる傾向があります。

最近では平成21年、22年が非常にジャミの数が多かったため、平成23～25年はマダイ資源が高水準で推移すると思われれます。平成23年には大幅にジャミが減少したため、26年以降のマダイ資源の減少が危惧されましたが、今回の調査で再びジャミが増加したため、当面は高水準を維持できると考えられます。